

平成30年度 施策評価(案)概要

評価基準

- ①施策を構成する事業の進捗状況
- ②成果指標等の状況
- ③施策に関する社会経済情勢等の変化

評価 (案)

評 価	施策数
◎：順調	18 施策
○：概ね順調	28 施策
△：やや遅れている	5 施策
×：遅れている	0 施策

特にご意見をいただきたい施策

- 施策 1 - 3 一人ひとりが健康で，生涯元気に活躍できる社会づくり
- 施策 1 - 7 子どもが健やかに育ち，安心して生み育てられる社会づくり
- 施策 2 - 2 公民館などを活用した活動の場づくり
- 施策 5 - 5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興
- 施策 6 - 3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化
- 施策 8 - 8 アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり

選定の考え方

- ①これまで「特にご意見をいただきたい施策」として一度も選定していないもの（5-5，6-3，8-8）
- ②基本計画策定後の社会情勢の変化や動きなどに対応したもの（1-3，1-7，8-8）
- ③福岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進（関連交付金事業）に関するもの（1-3，5-5，8-8）
- ④施策の進捗がやや遅れているもの（2-2）

施策の方向性

市民のライフステージに応じた自主的な健康づくりを支援するとともに、医療体制の充実、こころの健康づくりの推進など、市民が心身共に健康に生活できる環境整備を進めます。

また、高齢者の就業や起業、ボランティアなどの社会参加の場を創出するなど、アクティブエイジングを推進し、医療や介護に頼らなくても健康に活躍するアクティブシニアを増やします。

1 事業の進捗状況

●ライフステージに応じた健康づくり

自主的かつ継続的な健康づくりの普及・推進

- ・健康づくり月間におけるイベント参加者数 H29n：24,076人 → H30n：52,455人
- ・健康づくりフェスタへの参加者数 H29n：約33,000人 → H30n：約32,000人

特定健診受診率向上に向けた取組み

- ・特定健診受診率 H28n：23.0% → H29n：25.7% ※H30nはH31n下期公表予定
- ・特定保健指導実施率 H28n：27.4% → H29n：27.5% ※H30nはH31n下期公表予定

自殺予防の取組み

- ・自殺死亡率 H28n：15.0 → H29n：15.9 ※H30nはH31n下期公表予定

●生涯現役社会づくり

高齢者の活躍支援の推進

- ・アラカンフェスタへの来場者数 H29n：4,676人 → H30n：6,422人

よかトレ実践ステーションの創出・継続支援

- ・よかトレ実践ステーション登録数 H29n：106校区・地区（215団体） → H30n：141校区・地区（372団体，16施設）

●健康先進都市づくり

健康先進都市戦略の推進

- ・地域包括ケア情報プラットフォームの操作研修や関係施設への導入等、普及に向けた取組みを実施
- ・福岡ヘルス・ラボ採択事業件数（累計） H29n：5件 → H30n：10件

【総合戦略の推進（地方創生関連交付金）関連】

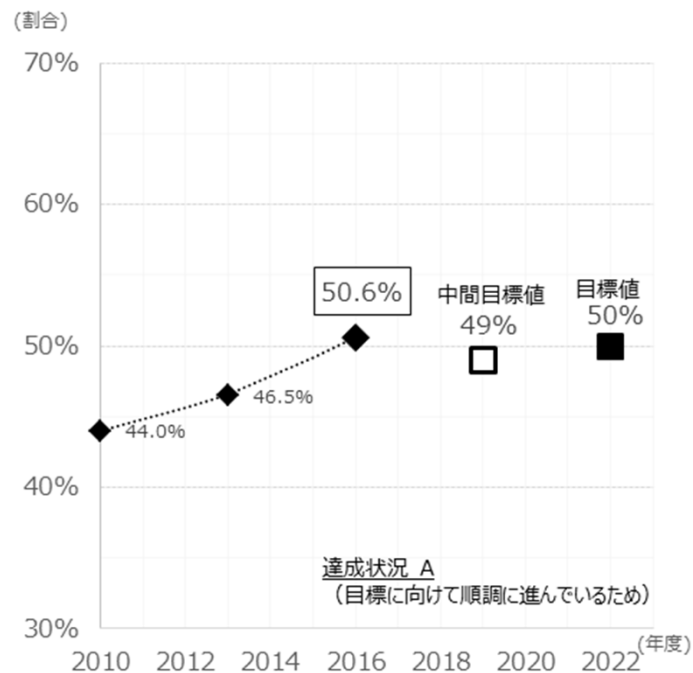
アクティブシニアの生涯現役さきがけ事業 ※詳細は資料7を参照

2 成果指標等

指標①

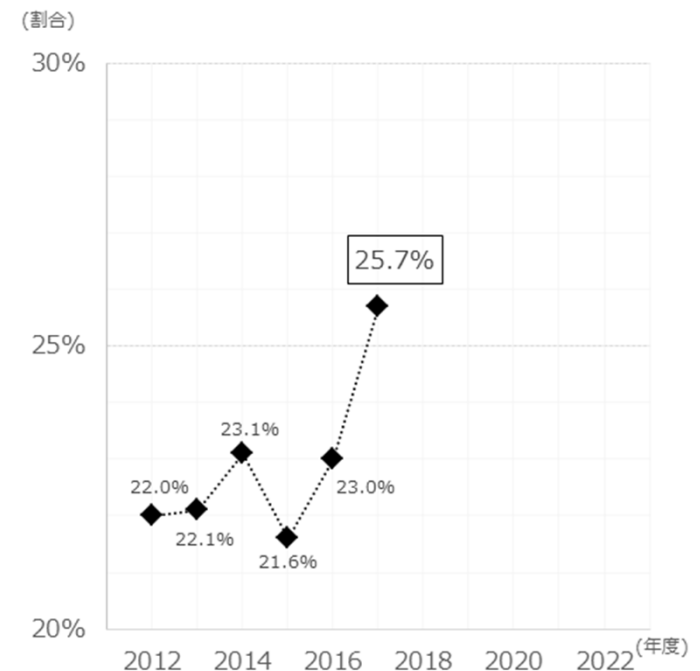
健康に生活している高齢者の割合

(60歳以上で「健康で普通に生活している」と回答した市民の割合)



指標②

特定健診受診率 [補完指標]



全国的な健康寿命の延伸や高齢者の社会参加活動の増加に加え，特定健診受診者の過去の受診状況に応じたDMの送付等による受診率向上に向けた取組みや介護予防事業の推進，地域貢献活動に参加しやすい環境づくり等の取組みにより，指標①・指標②が順調に推移していると考えられる。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調

[参考] 前年度
◎：順調

施策の方向性

家庭、学校、地域、企業、NPOなどと連携し、児童虐待など子どもに関するさまざまな問題に対する相談体制や地域全体での子育て支援の充実を図り、すべての子どもと子育て家庭を見守り育みます。

また、多様な保育サービスの充実を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組みます。

1 事業の進捗状況

●子どもの権利を尊重する社会づくり

社会的養護体制の充実

- ・乳幼児里親登録数 H29n：9世帯 → H30n：24世帯

児童虐待防止対策

- ・子育て見守り訪問員による訪問世帯数 H29n：154件 → H30n：212件

●安心して生み育てられる環境づくり

新たな保育ニーズへの対応

- ・保育所等定員数 H29n：35,330人 → H30n：37,861人

保育士などの人材確保

- ・就職あっせん数に対する就職成立割合 H29n：83.8% → H30n：96.8%

多様な保育サービスの充実

- ・一時預かり事業の実施か所数 H29n：10か所 → H30n：12か所
- ・障がい児保育の実施か所数 H29n：346か所（全保育施設等）→ H30n：385か所（全保育施設等）
- ・病児・病後児デイケア事業の実施か所数 H29n：20か所 → H30n：21か所
- ・医療的ケア児保育モデル事業の実施か所数 H30n：1か所

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実

- ・産後ケア事業利用者数 H29n：188人 → H30n：248人
- ・産後ヘルパー派遣事業利用者数 H29n：152人 → H30n：173人

●地域における子育ての支援

放課後などの活動の場づくり

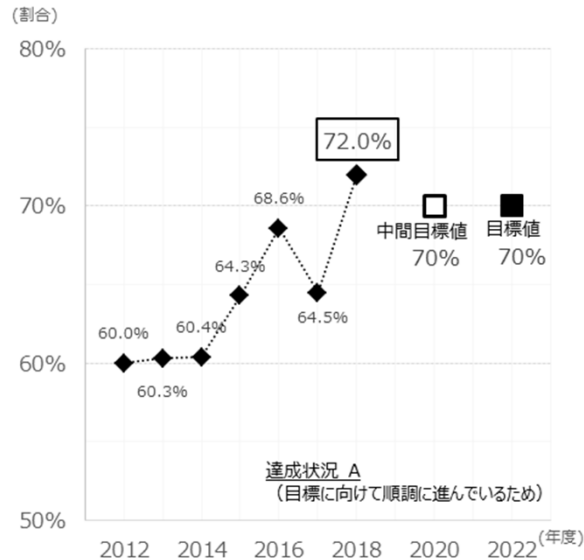
- ・留守家庭子ども会事業における増築等を実施した施設数 H29n：5か所 → H30n：6か所

2 成果指標等

指標①

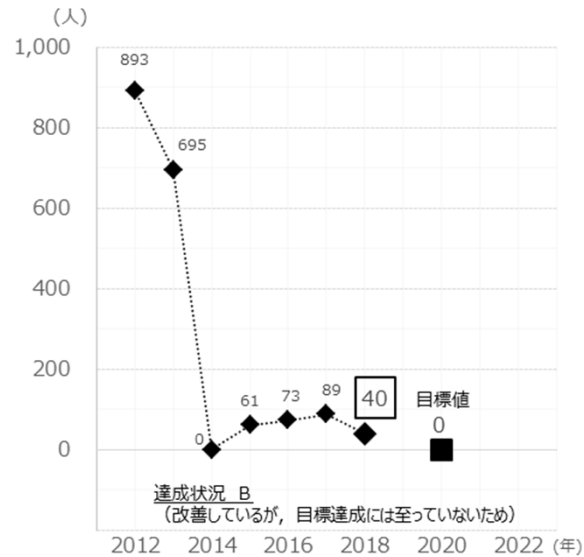
子育て環境満足度

(福岡市が子育てしやすいまちだと感じる、高校生以下の子をもつ保護者の割合)



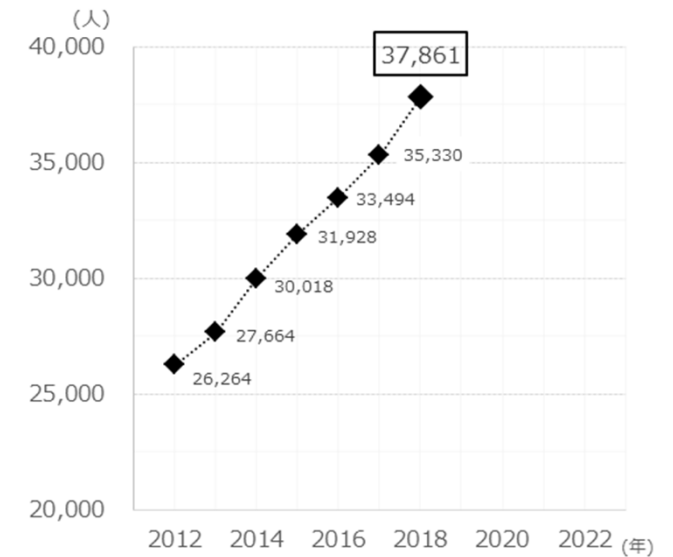
指標②

保育所入所待機児童数



指標③

保育所等定員数 [補完指標]



指標③の保育所等定員増の取組みなどを進めた結果、指標②の待機児童数はH30.4.1時点で40人に減少し、指標①の子育て環境満足度は目標値の70%を上回った。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考] 前年度
○：概ね順調

施策の方向性

地域コミュニティ活動の場として活用されている公民館や市民センター、地域交流センターなどの必要な整備を進めます。

また、公民館の「集まる」、「学ぶ」、「つなぐ」という機能を活用し、自治協議会、関係団体と連携した地域コミュニティ活動支援に取り組むとともに、小学校をはじめとするさまざまな地域の施設について、ボランティアや住民の活動拠点としての活用を促進します。

1 事業の進捗状況

●活動の場づくり

公民館の機能強化（公民館改築）

- ・150坪館整備済数 H29n：138館 → H30n：139館

公民館の機能強化（地域の担い手パワーアップ事業）

- ・地域の担い手パワーアップ事業 実施公民館数（累計） H29n：191館 → H30n：301館

【主なプログラム】

公民館の地域力応援プログラム（公民館職員の地域コミュニティ支援能力を向上させるための講座等を実施） H29n：20回 → H30n：17回

公民館スマホ塾（身近な公民館においてスマートフォンの活用方法等を紹介する講座を開催） H29n：57館 → H30n：73館

地域の担い手づくりプログラム（地域活動に主体的に取り組む人を育成するための講座等を開催） H29n：42館 → H30n：45館

きっかけづくりプログラム（公民館利用のきっかけづくりとして、気軽に公民館に立ち寄ってもらえるような催し等を開催）

H29n：32館 → H30n：30館

地域集会施設建設等助成

- ・地域集会施設の新築や増改築、修繕、借上等に対する助成 H29n：22件 → H30n：28件

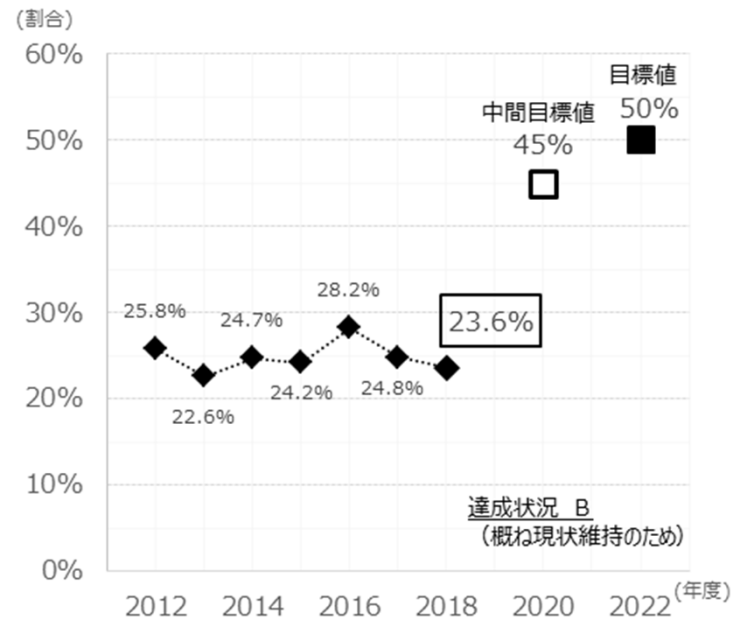
早良南地域交流センター（令和3年開館予定）整備の推進

- ・整備用地の取得，PFI事業契約の締結

2 成果指標等

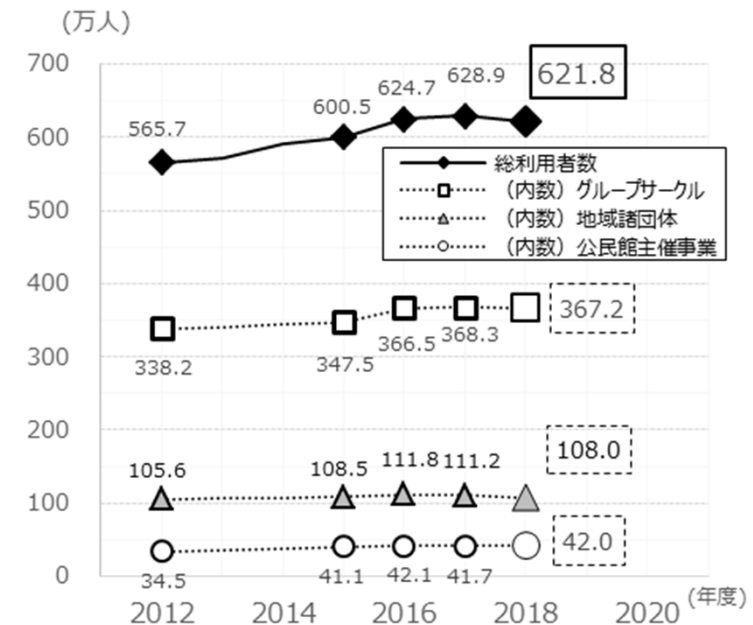
指標①

公民館の利用率（年に1～2回以上公民館を利用した市民の割合）



指標②

公民館延べ利用者数 [補完指標]



地域の担い手パワーアップ事業などの取組みを進め、指標②の利用者数は増加傾向にあるが、指標①の公民館の利用率は概ね横ばいで推移している。これまで公民館を利用していない人の利用を促進するきっかけづくりなどの取組みをさらに進めていく必要がある。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている

[参考] 前年度
△：やや遅れている

施策の方向性

国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。

1 事業の進捗状況

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取り組み

- ・博多の森陸上競技場及びレベルファイブスタジアムの改修
- ・ラグビーワールドカップ2019組織委員会福岡支部の設置
- ・第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会組織委員会の設立
- ・世界フィギュアスケート国別対抗戦2019の開催に向けた準備

国際スポーツ大会等の合宿地としての取り組み

- ・東京2020オリンピックの事前合宿として、スウェーデン及びノルウェーの各オリンピック委員会の視察対応
- ・ラグビーワールドカップ2019の公認キャンプ地に決定及び各チームの視察対応

総合体育館整備の推進 <再掲 1 - 5>

- ・H30.12から供用開始

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

- ・アビスパ福岡によるサッカー教室の開催件数 H29n：102件 → H30n：128件
- ・観戦招待事業 H29n：3件 → H30n：3件
- ・心の教育プロジェクト H29n：20件 → H30n：20件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 H29n：25校 → H30n：25校
- ・こども観戦招待事業を実施 H29n：285人 → H30n：290人

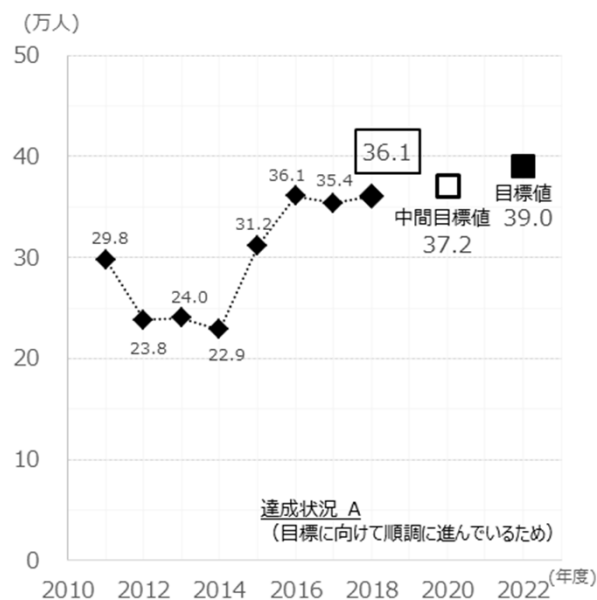
【総合戦略の推進（地方創生関連交付金）関連】

大規模スポーツ大会を契機としたスポーツの振興及び地域の活性化 ※詳細は資料7を参照

2 成果指標等

指標①

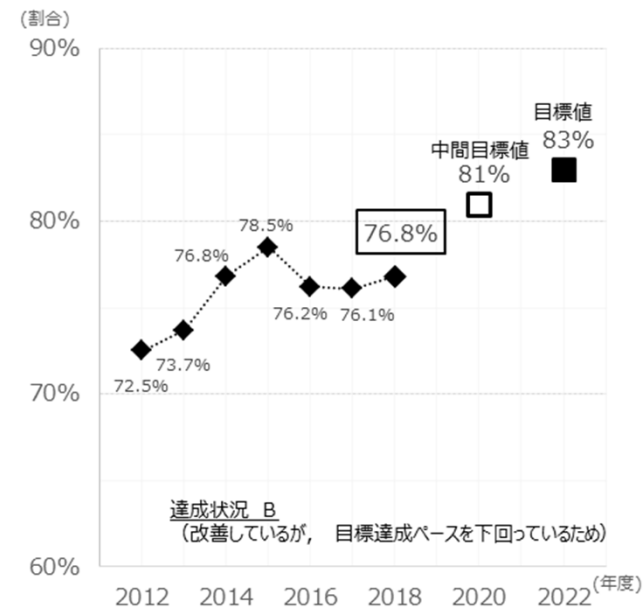
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの
主催試合観客数（福岡ソフトバンクホークスを除く）



指標②

スポーツ観戦の機会への評価

（福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思ふ市民の割合）



指標①については、アビスパ福岡ホームゲームにおける市民応援デーの開催などにより、毎年安定して30万人以上の観客数となっており、目標値の達成に向けて順調に推移している。また、指標②についても、多くのプロスポーツや国際大会の開催などにより、高い水準で推移している。

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調

[参考] 前年度
○：概ね順調

施策の方向性

融資や経営相談、東京・大阪など大都市圏への販路開拓支援、アジアをはじめとする海外への展開支援などにより、地場中小企業の競争力・経営基盤の強化を図るとともに、にぎわいと魅力ある商店街づくりや、伝統産業への支援などを進め、地域経済の活性化を図ります。

1 事業の進捗状況

●中小企業の振興

融資制度等による中小企業の経営支援

- ・商工金融資金 資金需要に対応した十分な融資枠を確保し、制度の充実・強化を実施

商談会や新商品のPR支援などによる中小企業の販路拡大

- ・既存企業とスタートアップ企業のマッチング件数 H29n：290件 → H30n：135件（うちブース等におけるマッチング件数 H29n：120件 → H30n：135件）
- ・福岡市トライアル優良商品の認定数 H29n：4製品，3役務 → H30n：5製品，3役務

中小企業の人材確保支援

- ・地元就職・人材確保支援事業における交流イベント等参加者数 H30n：企業408人，学生943人
- ・ふくおかのしごと見える化事業における 求人検索・応募アプリのダウンロード数 H30n：4,380ダウンロード 求人掲載企業数 H30n：200社

中小企業の生産性向上の促進

- ・キャッシュレスを推進するセミナー等参加者数 H30n：334人
- ・生産性向上特別措置法に基づく先端設備等導入計画（H30年7月受付開始） 認定件数 H30n：86件 設備投資額 H30n：約14億円

●商店街の活性化

新たな取組みにチャレンジする商店街への支援

- ・地域との共生を目指す元気商店街応援事業実施商店街数（累計） H29n：6商店街 → H30n：9商店街
- ・NEXTチャレンジャー育成事業参加商店街数（累計） H30n：15商店街
- ・NEXT・FOODグランプリ参加商店街数（累計） H30n：15商店街

●伝統産業の振興

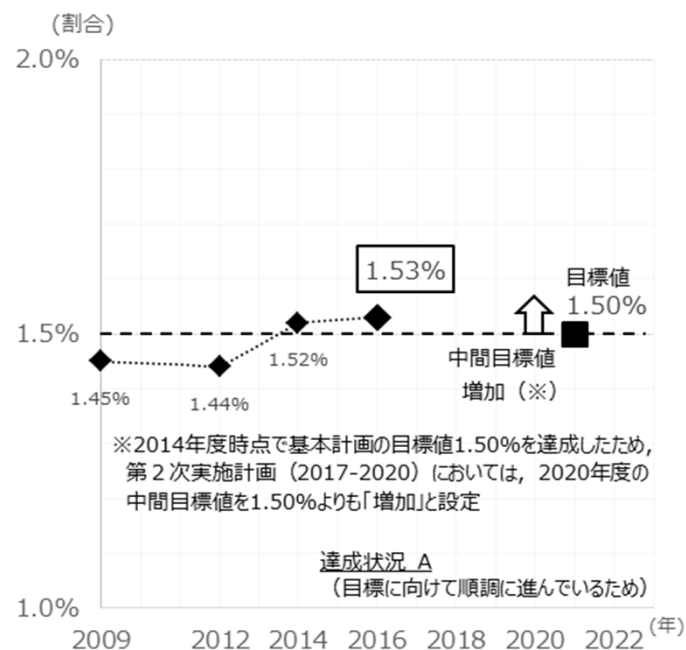
後継者育成支援等による伝統産業の振興

- ・博多織DC卒業生のうち博多織関係業務に従事する人数 H30n：46人
- ・博多人形師育成塾受講修了者のうち継続して博多人形の制作に携わっている人数 H30n：68人

2 成果指標等

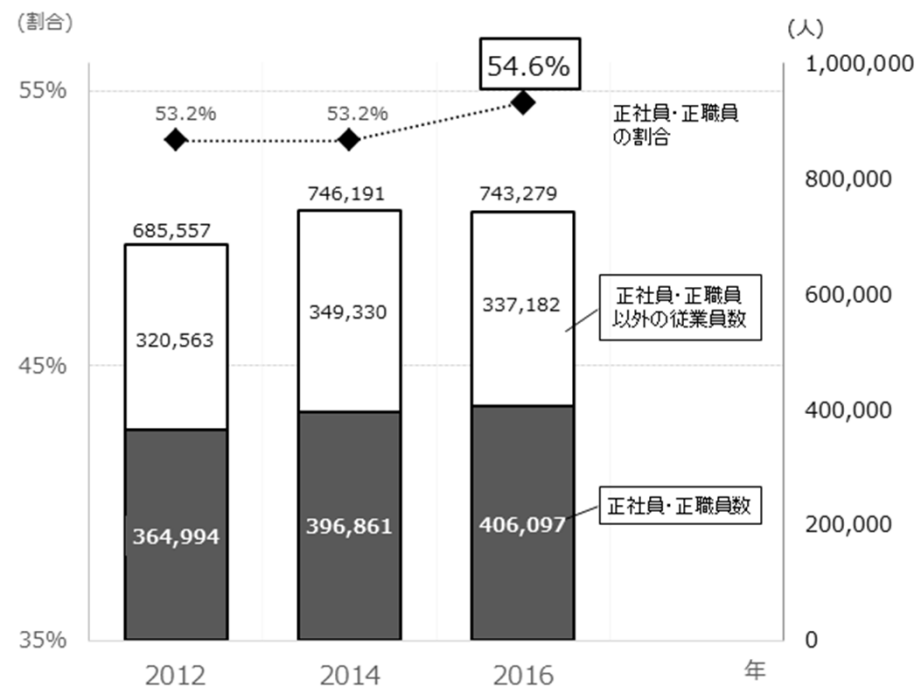
指標①

全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合



指標②

市内中小企業従業者における正社員・正職員数と割合〔補完指標〕



指標①は、目標値を上回っており、指標②は増加傾向にある。これは、本市の融資制度等による経営支援、人材確保支援、創業支援などにより、中小企業が事業を行いやすい環境となっているためと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調

[参考] 前年度
◎：順調

施策の方向性

海外の多様な文化を理解し外国人とも隔たり無く交流できるよう、市民の意識の涵養に努めるとともに、日常生活に必要な情報提供などの支援を外国人に行うなど、日本人のみならず外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを進めます。

1 事業の進捗状況

●外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり

在住外国人への生活情報等の提供

- ・生活ルール・マナー講座の実施件数 H29n：34件 → H30n：30件
- ・外国人向け生活便利帳「リビングイン福岡」について、ベトナム語版、ネパール語版を作成

在住外国人への日本語習得支援

- ・児童生徒に日本語指導を行う教員の数 H29n：27人 → H30n：27人
- ・日本語指導拠点校の数 H29n：小学校4校 → H30n：小学校4校・中学校4校
- ・日本語ボランティアを対象とした研修の受講者数 H29n：80人 → H30n：78人

在住外国人に対する暮らしのサポート（相談・医療・教育等）

- ・福岡市国際会館において、多言語による一般相談や専門相談を実施
- ・福岡アジア医療サポートセンターの対応言語を拡充

市民と外国人との共生・相互理解の促進

- ・市及び国際交流財団が地域における国際交流を支援した件数 H29n：6件 → H30n：9件

施設の多言語対応や体験プログラムの開発など外国人旅行者の受入環境整備

- ・外国人旅行者の回遊性向上に向けた実証（観光ビッグデータを活用した観光案内・サービス実証を実施）

【参考】

①ワンストップ型の外国人相談窓口「福岡市外国人総合相談支援センター」の設置（H31.4.1～）

- ・在住外国人からの生活に係る相談を受け付け、適切な情報提供及び関係機関への取次ぎを実施（18言語対応 ※日本語含む。）

②地域の国際交流を促進する「共生コーディネーター」の設置（H31.4.1～）

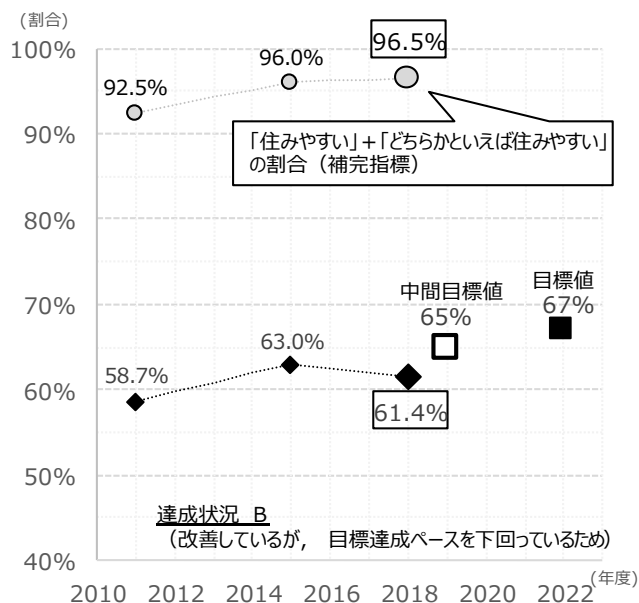
- ・地域住民と外国人の交流をサポートし、相互理解を促進。

2 成果指標等

指標①

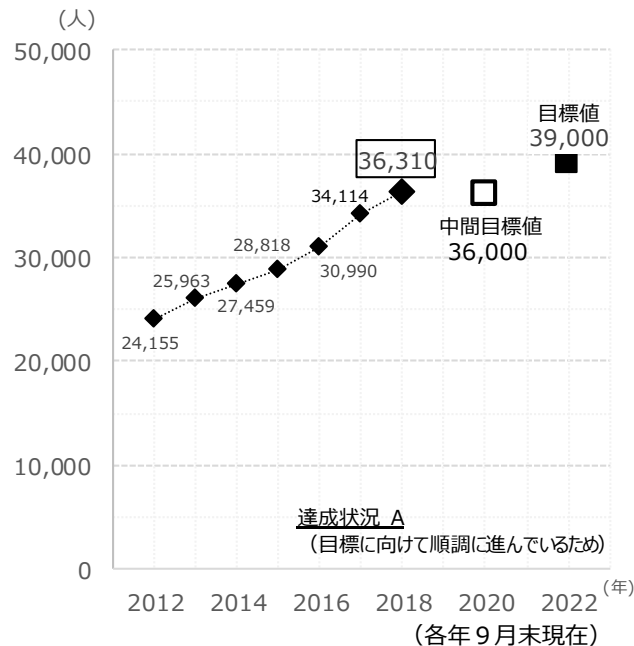
在住外国人の住みやすさ評価

(福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合)



指標②

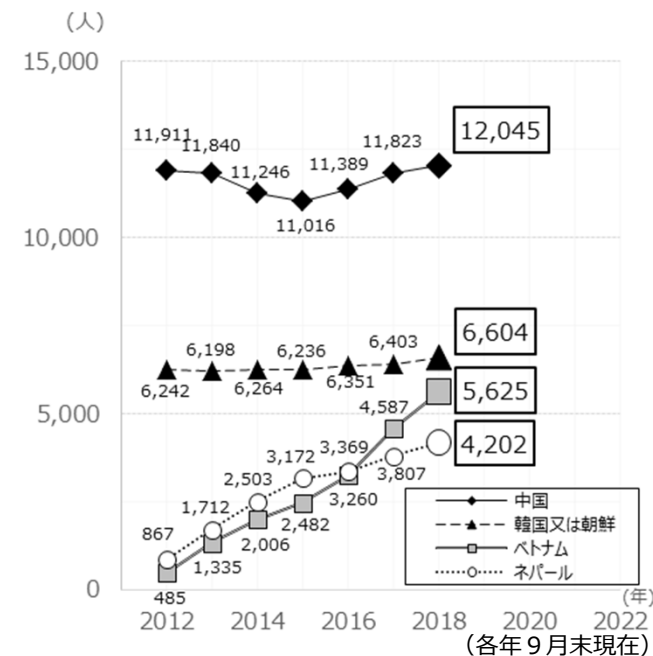
福岡市に住んでいる外国人の数



指標③

福岡市に住んでいる外国人の数

(国籍・地域別(上位4か国)) [補完指標]



指標①は若干下がったが、「住みやすい」に「どちらかといえば住みやすい」を加えた割合（補完指標）は高い水準で推移しており、指標②も目標達成に向けて順調に進んでいる。これは全市的に外国人にも住みやすいまちづくりを進めた結果、福岡市が住みやすいまちと認知された結果と考えられる。

なお、国籍・地域別では、ベトナム、ネパール国籍を持つ外国人の増加が顕著となっている。（指標③）

3 事業の進捗状況，成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調

[参考]前年度
◎：順調